

学校評価アンケートの結果(超概要)

全体の数値につきましては、添付資料をご覧ください。

1. 全体の経過について

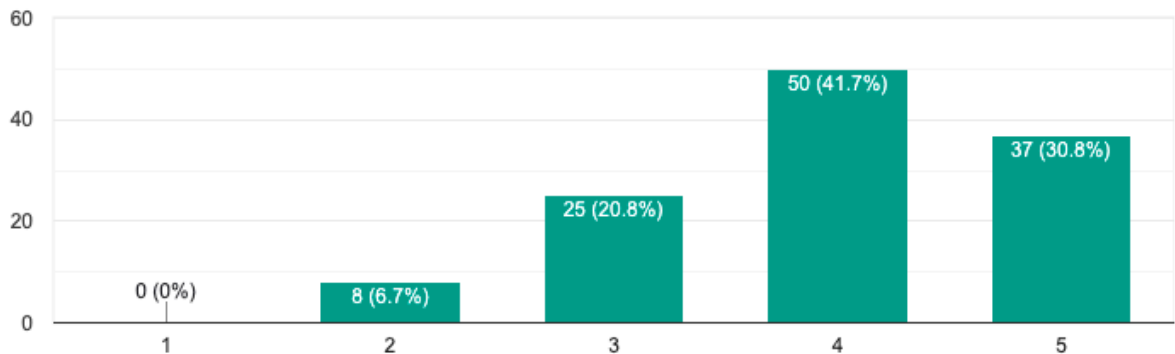
昨年度、「グラフ等で示してみてもどうか？」というご意見をいただきました。今年度のグラフは、ほとんどがきれいな釣鐘型(正規分布)となりました。つまり、平均が3.50ポイントのアンケート項目であれば、その周辺を中心に左右対称の分布が見られました。

釣鐘型グラフの例

自分は「やればできる!」と感じている

 グラフをコピー

120 件の回答



一方で、一部の項目にはばらつきが見られたため、いくつか考察を行いました。

① 子どもたちの共通項目:「世界(11)私は、新聞を読んだりニュースを見たりして、世の中の動きに興味を持っている。」

この質問は、1から5まで満遍なく選択されました。多かった意見として、「新聞を読んでいないから」という理由が挙げられました。新聞を購読していない家庭も多いですが、現代では他の方法で世の中の動きを知ることが可能であるため、今後の項目設定について再考の余地があります。

② 子どもたちの共通項目:「世界(17)自分が学んだことを誰かに発表することができる。」

この項目も幅広い選択が見られました。発表の得意・不得意が影響していると考えられます。例えば、「全体の前では苦手だが、隣の友達には話せる」といったように、発表の形式や規模、タイミングによって違いが出ている可能性があります。

ばらつきの傾向

上記の結果を踏まえ、以下の要素がばらつきの要因となっている可能性があると考えます。

1. 個人差があるもの
2. インプット・アウトプットにかかわらず、人や物を媒介とするもの

2. 学年・カテゴリごとの結果について

① 下学年(低学年)

今年度より、学校で回答用紙に直接記入する方式を採用しました。昨年度までは家庭での聞き取りをお願いしていましたが、今年度は児童自身が学校で回答する形に変更しました。その結果、回答数が昨年度比で4割(14名)増加しました。

主な傾向と考察

- 回答者が増えたことで、平均値が低下した項目があるが、それはより客観的な視点での評価が可能になったことを示していると考えられる。
- 「計画」に関する項目は昨年度より向上したが、「何をしなければならないかわかっている」は減少。計画を立てているが、1日の見通しを持っていない可能性がある。
- 「友達の話の聞いたり、聞いてもらったりしている」感覚が低い一方で、「わたしプレゼン」のような発信活動に自信を持つ子どもが増えている。

② 中学年

- 自分(4):「グループリーダーの学習についての説明を受けるかどうか、自分で選ぶことができる。」→ 2年間高評価を維持。学習の選択権が定着していると考えられる。
- 自分(5):「学習の答え合わせや直しを、自分でしている。」→ 自己修正を通じた理解の深化が必要。6年生・9年生と共通する学習スキルとして定着させるべき。

③ 上学年(高学年)

- 課題:「片付け・掃除」とそれに対する責任感が不足している。
- 対話環境: サークルでの雑音が「意見が大切にされていない」と感じる原因となっている可能性。
- 学習の変化:「ワールドオリエンテーション」での自己関連性の高いテーマ(「旅」「はたらく」「民主主義」)が影響し、興味関心が向上。
- 自己評価の向上: 友達からのフィードバック(「すごいね」)が、成長実感に寄与。

④ 保護者の意見

質問項目を精査し、よりマクロな視点での評価を求めました。また、自由記述欄を設けたことで、学校運営に関する具体的な意見を得ることができました。

気になる点

- 「保護者の意見が学校運営に反映されているか？」
 - 意見を伝えた後のフィードバックが不足しているとの声が多かった。
- 「何を学びたいか、何を学ばねばならないかがわかっているか？」
 - 子どもたちの学びの進捗や成果について知りたいという要望が自由記述で寄せられた。

⑤ 自由記述からの主な意見

- 2学年制について:「3学年制に戻したら、学び合いや助け合いが増えるのではないか？」という意見が多数。
- 保護者の意見の取り扱い:「意見を出す機会はあるが、それがどのように反映されているかが見えにくい。」
- 学習プログラム:「ゲストティーチャーとの学びが重要だが、より綿密な事前打ち合わせが必要。」
- 生徒指導:「自由と責任のバランスをより明確に伝えるべき。」
- 環境について:「樹木・作物・動物の飼育管理を徹底してほしい。」
- 他校・地域との交流:「他のイエナプラン校や地域と積極的に交流してほしい。」
- 給食:「量の選択制度について、改めて意図を保護者に伝えるべき。」
- 学校経営:「経費や会計状況について、より透明性のある説明を希望。」

⑥ 教職員

- 環境設定:「より使いやすい教室にしたい」
- 学習の計画・ふりかえり:「見取り」という観点から取り組み、手応えがあった。

まとめ

本年度のアンケート結果から、

1. 学習の自己選択や自己修正の重要性
2. 保護者の意見の反映とフィードバックの仕組みの改善
3. 対話環境や責任意識の向上 などの課題が明らかになりました。